

CT用造影剤自動注入器（インジェクター）落下事故について

概要

造影CT後患者さんをストレッチャーにうつす際、近くにあった自動注入器（天井吊り下げ型）を移動しようとしたところ、インジェクター本体が支持器から落下し、患者さんの顔に当たった。患者さんは上唇付近を切り2針縫合する結果となった。

落下事故対象機器等

- ・ 製造元 メドラッド社製
- ・ 機種名等
支持器 オーバーヘッドカウンターポイズシステム（OCS II）
インジェクター本体 ステラント DF

原因及び対策

支持器と本体を接続しているネジ（図2）が緩んでいたため、上へ跳ね上げたときに抜ける状態（図3）になっていたと思われる。この様な状態でインジェクターを移動したため取り付け部分が抜け落下した。



図 1 正常に取り付けられた上体の支持器と本体



図 2 取り付け部分 ○ の拡大図



図 3 跳びだしてきた状態の取り付け部分

この部分に図5の締め
付け用ネジが入る



図 4 本体の取り付け部分



図 5 支持器の受け部分の構造

現場での検証で、ネジが非常に緩みやすいこと、本体を垂直に立てて上に跳ね上げたときに抜けやすいことが確認された。この締め付け用ネジはメンテナンス時にしか使用しないものである。

メーカーとの協議の結果、メーカーで不具合の届出を行い修理するとのことであった。修理の方法等については未定である。



図 6 落下した状態のインジェクター